

2 ロリー・オモア あるいは吉兆

若者ロリー・オモアがキャサリン・ボーンに求婚したんだ
あいつは鷹のように大胆な男 相手は朝日のように優しい女
あいつは心から美しいキャサリンを喜ばせたくて
しつこく言い寄るんが一番だと考えたのさ
「ねえロリー 落ち着いて」優しいキャサリンが頼む 5
(口では咎めていても 目に浮かぶのは笑み)
「もう変なことするから 何しようとしてたかわかんなくなっちゃったわ
あんまりしつこいから コートを裏表に着ちゃったじゃないの」
ロリーは言う「なあハニー 満更じゃないんだろ
今まで散々同じ目に合わせて もう何日も気を揉んでばかりだ 10
俺は嬉しいんだ だからもう心を決めるよ
これもみんな幸運の印さ」大胆なロリー・オモアは言う

キャサリンは言う「あのね そうじゃないわ
私ね セージツなマイクと結婚しちゃおうかとも思ってたの
彼ったら 私が歩く地面も愛おしいって 彼に決めようかしら」 15
「待てよ 俺は地面なんかよりもお前が好きなんだ」
「ねえロリー 離してくれないなら大声出すわよ
きっと毎晩あなたを嫌う夢を見るわ」
「おお そりゃあ嬉しいこと言ってくれるな
だってよ 夢っちゅうもんはいつもあべこべなんだぜ 20
なあハニー 死ぬまでずっとその夢を見ていてくれよ
そうすれば 明るい朝が来て 汚い夜が真っ赤な嘘だと明かしてくれるさ
俺は嬉しいんだ だからもう心を決めるよ
これもみんな幸運の印さ」大胆なロリー・オモアは言う

「ああ キャサリン 俺の恋人 もうこれ以上焦らすなよ 25
確かに俺はお前のために ディニー・グリムズやジム・ダフをぶちのめして
お前に乾杯しすぎてベロンベロンになっちゃったよ
だから 後で 司祭のところに行けば告白しちゃうかもな」
それからロリーは ペテン師め 腕を彼女の首に回しやがった

柔らかで色白で シミもそばかすもない首に 30
そしてロリーは輝きを放つ彼女の目を覗き込み
その柔らかい唇にキスしたんだ お前もあいつがうまくやったと思うだろ
「もうロリーったら 離してちょうだい もうこれ以上抱きしめないで
あなた今日 私にもう八回もキスしてるんだから」
「じゃあほらもう一回 だってそうだろ 35
奇数は幸運の印だからね」ロリー・オモアは言うのだった

(三木菜緒美訳)